

☆年間第12主日(6月21日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (エレミヤの預言 20章10～13節)

エレミヤは言った。

わたしには聞こえています、多くの人の非難が。

「恐怖が四方から迫る」と彼らは言う。

「共に彼を弾劾しよう」と。

わたしの味方だった者も皆わたしがつまずくのを待ち構えている。

「彼は惑わされて我々は勝つことができる。彼に復讐してやろう」と。

しかし主は、恐るべき勇士として、わたしと共にいます。

それゆえ、わたしを迫害する者はつまずき勝つことを得ず、成功することなく甚だしく辱めを受ける。それは忘れられることのないとしへの恥辱である。

万軍の主よ、正義をもって人のはらわたと心を究め見抜かれる方よ。

わたしに見させてください、あなたが彼らに復讐されるのを。わたしの訴えをあなたに打ち明けお任せします。

主に向かって歌い、主を賛美せよ。主は貧しい人の魂を悪事を謀る者の手から助け出される。

第二朗読 (使徒パウロのローマの教会への手紙 5章12～15節)

このようなわけで、一人の人によって罪が世に入り、罪によって死が入り込んだように、死はすべての人に及んだのです。すべての人が罪を犯したからです。律法が与えられる前にも罪は世にあったが、律法がなければ、罪は罪と認められないわけです。しかし、アダムからモーセまでの間にも、アダムの違犯と同じような罪を犯さなかった人の上にさえ、死は支配しました。実にアダムは、来るべき方を前もって表す者だったのです。

しかし、恵みの賜物は罪とは比較になりません。一人の罪によって多くの人が死ぬことになったとすれば、なおさら、神の恵みと一人の人イエス・キリストの恵みの賜物とは、多くの人に豊かに注がれるのです。

## 福音朗読 (マタイによる福音書 10章 26～33節)

そのとき、イエスは使徒たちに言われた。

「人々を恐れてはならない。覆われているもので現されないものはなく、隠されているもので知られずに済むものはないからである。わたしが暗闇であなたがたに言うことを、明るみで言いなさい。耳打ちされたことを、屋根の上で言い広めなさい。体は殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい。二羽の雀が一アサリオンで売られているではないか。だが、その一羽さえ、あなたがたの父のお許しがなければ、地に落ちることはない。あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。だから、恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている。

「だから、だれでも人々の前で自分をわたしの仲間であると言い表す者は、わたしも天の父の前で、その人をわたしの仲間であると言い表す。しかし、人々の前でわたしを知らないと言う者は、わたしも天の父の前で、その人を知らないと言う。」

### 朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

ようやく主日のミサを行うことができるようになりました。四旬節の始まりからですからもう長いこと教会での主日のミサが行われなかったのですね。お待たせいたしましたと申し上げたいです。さて、とはいっても、感染の危機がなくなったわけではありませんので、お互い感染防止に協力しましょう。今までのミサの状態では「密」になりますので、日曜日のミサは9時と10時半の二回行うことになりましたので、どちらかで参加してください。なお、どちらかが多くなりすぎると困りますので、ゆくゆくは調整させていただくかもしれません。特に用事がない方は10時半のミサが良いかと思えます。久々にお会いになる方がおられることでしょうか、密にならない形でお過ごしください。なお、菊地大司教様よりのメッセージがありますので、お読みください。特に聖体拝領の仕方については、手で受けていただくようお願いいたします。

## 第一朗読 (エレミヤの預言 20章10～13節)

迫害を受けていたエレミヤはその心の内を語っています。「多くの人の避難が聞こえると。「彼に復讐してやろう」と。しかしエレミヤは負けません。「私に見させてください。あなたが彼らに復讐されるのを」と祈ります。主である神はひとたび約束したことを間違いなく果たされるとエレミヤは信じ切っているのです。現代に生きる私たちも「主は私たちとともにおられる」ことをエレミヤとともに確信しましょう。

## 第二朗読 (使徒パウロのローマの教会への手紙 5章12～15節)

アダムによってもたらされた罪、いわゆる「原罪」のもたらす結果「死」は全人類に及んだのですが、その罪からの解放と救いを成し遂げられた一人の人イエス・キリストは、神の恵み「復活」を多くの人にもたらしたと、パウロは力強く述べています。そう、キリストの贖の力は死の力をはるかにしのぐ多くの恵みをもって私たち信じる者を守っているのです。この考え方は、第一朗読のエレミヤ預言者にも通じるものがあります。神は私たちをどんなことがあっても見捨てることがないということです。

## 福音朗読 (マタイによる福音書 10章26～33節)

福音も「体を殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな」と言っています。今は新型コロナウイルスの脅威が私たちに迫っていますが、(マジメに怖いのですが…)神様から切り離されることに比べれば、大したことはないと言っているのです。現実には怖いものは怖いのですが、同じ怖さを味わいながら殉教者たちは神を選んだのです。私一人は今の世界中の人々の中のたった一人ですが、この小さな私にも神は目を止めてくださっているのです(二羽の雀の話)。この私を名前と呼んでくださっているのです。この神に信頼してこの新型コロナウイルスの時代を生き抜いていきましょう。



**追記**

平日の朝のミサは6時45分から行われます。教会のミサは逃げませんので、焦らず、ウィルスの負けない免疫力をつけるようにしましょう。ご高齢の方は具合のよろしい時を見てミサに参加してください。また、ミサ以外でもいつでも聖体訪問はできますので、教会に寄って行ってください。私は平日の日中は幼稚園にいたることが多いですが、呼んでくださればいつでも対応できます。よろしく。

カトリック足立教会  
主任司祭 野口重光